


GAPによる地域振興への貢献

2022年10月28日（金）

セブン-イレブンの商品



「安全・安心」
「健康」

「価値訴求」

価値ある商品
サービスの提供

「地域社会に貢献し、ともに成長」

地区開発商品の体制

2022年9月30日現在

地区の味・嗜好

地区商品開発

協力工場で製造

【全国11ブロック】
地区商品開発担当：7～14名/地区
協力製造工場：177工場

北海道



東北



北関東

地区MD : 11人
協力工場 : 24工場

新潟北陸



沖縄



中国四国



九州



関西



東海



首都圏



長野山梨



GAP指導員取得状況

セブン-イレブン・ジャパン

27名

※令和4年3月時点




【見本】
Trainer



なぜ福島県からスタート？

セブン-イレブンと福島県は、「親和性」が高い

1974年

地方出店の先陣

※1975年：24時間営業開始
(福島県郡山市・虎丸店)

2009年 4月

地域活性化
包括連携協定締結

GAP認証取得

トップランナー

風評被害の払拭
(生産者応援)

福島県における第一弾対応①

行政連携



【写真】2022年4月21日：福島県庁にて

【福島県知事説明】

「GAP 認証されたすばらしい農産物を生かした商品を7&iグループの力を合わせて、しっかりつくっていただいたことに改めて敬意と感謝の意を表したい。」



【写真】加盟店での売場展開事例

グループ連携

ヨークベニマル、イトーヨーカ堂にて販売

「ロメインレタスとミニトマトのサラダ」「ミックスサンド」



【写真】ヨークベニマル売場展開参考写真

福島県における第一弾対応②

店舗販促連携

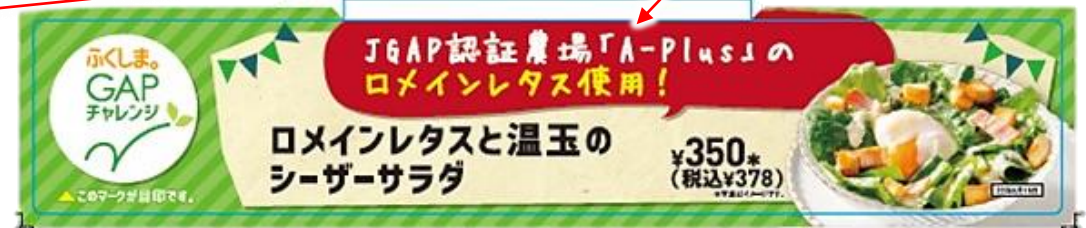
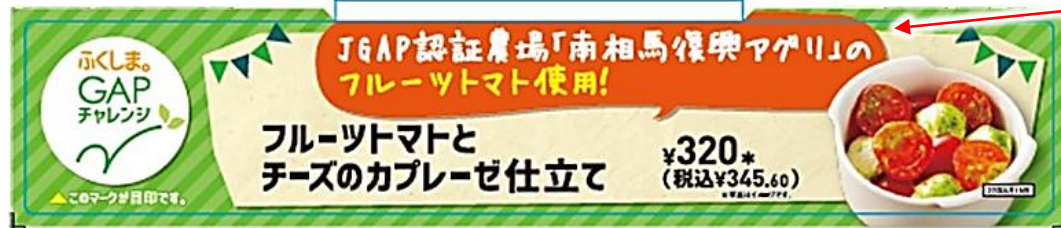


(店頭写真) 2022年4月25日福島県のセブン-イレブン店舗にて撮影



二次元
バーコード
↓
GAP認証とは…

単品ごとに使用農場、使用品種を明記



生産者の反応（動画）

（株）JRとまとランドいわきファーム
代表取締役：元木寛様（20秒）



（株）A-Plus
代表取締役：沼上透様（20秒）



動画



今回の取組みについてコメントをいただきました。

福島県における第一弾商品

【福島県：421店舗での販売】

※食数/使用トン数：2022年4月22日～6月末頃までの実績より抽出

ロメインレタスと温玉の
シーザーサラダ D+1-3

売価：350円（税込378.00円）



●ロメインレタス

約27,500食

約2.5トン



フルーツマトとチーズの
カプレーゼ仕立て

売価：320円（税込345.60円）



●フルーツマト

約147,500食

約7.5トン



シーザーサラダ
サンド

売価：350円（税込378.00円）



●デリカトマト

約28,000食

約0.5トン



今後の福島県での取組み

●福島県の「野菜系サンドイッチ」全品で取組み開始（22年10月26日（水）～）
「サンドイッチ」で使用する野菜を100%GAP認証取得野菜に切替え（フルーツ商品除く）



ミックス
サンド
270円



シャキシャキ
レタスサンド
290円



野菜ミックス
サンド
310円



ジューシーハム
サンド
290円



たまごとハムの
ミックスサンド
290円



「ふくしま。
GAPチャレンジ」
第3弾として
野菜系サンドイッチ 8品
での取組みに拡大

※パッケージは一部、仮包材となっております

「ふくしま。GAPチャレンジ」の取組みと連携し
安全・安心、品質向上を訴求

セブン-イレブンにおける目標

●デイリーオリジナル商品の野菜使用量目標

【2022年度】GAP認証野菜取組み強化_4/21（木）ニュースリリース

【2023年度】外部発信強化_GAPの取組みを加速（※セブン-イレブン50周年）



2030年

GAP認証野菜比率

50%

2050年

GAP認証野菜比率

100%



